



2003 年

No.26

10 月

Japanese Society of Alternative to Animal Experiments

日本動物実験代替法学会

目 次

---

1. 第 17 回日本動物実験代替法学会大会開催要領 . . . . .	2
2. 企画委員会報告 . . . . .	10
3. 平成 15 年度の日本動物実験代替法学会論文賞選考について . . . . .	11
4. JEMS&JSAAE2004 長崎大会開催予告 . . . . .	12
5. バリデーション情報 . . . . .	13
6. 日本薬理学会で「動物実験代替法」シンポジウムを開催 . . . . .	14
7. ホームページがかわりました . . . . .	14

---

## 第17回日本動物実験代替法学会大会開催要領

### 場所：麻布大学

〒229-8501 神奈川県相模原市淵野辺 1-17-71

JR 横浜線 矢部駅北口 徒歩4分

Phone: 042-754-7111

Fax: 042-754-7661

Homepage: <http://www.azabu-u.ac.jp/>

### 大会受付：

学会会場（8号館7階）のロビーにおいて、11月7日午前8時30分より受付をいたします。

### クローク：

学会会場（8号館7階）のロビーに設置いたします。

### 休憩コーナー：

展示会場（8号館6階）にご用意いたします。百十周年記念会館カフェテリアも利用できます。

### 昼食：

百十周年記念会館カフェテリア、あるいは近隣のレストランをご利用ください。

### 大会参加費：

会員（事前登録） 5000円（当日登録）7000円  
非会員（事前登録） 7000円（当日登録）9000円  
学生（事前・当日に関わらず） 2000円

市民公開フォーラム参加費： 無料

### 懇親会：

11月7日（金）、18:00-20:00、百十周年記念会館カフェテリアで行います。当日申し込みも受付ます。  
会員・非会員 4000円（当日登録）4000円  
学生 2000円（当日登録）2000円

口座名義： 第17回日本動物実験代替法学会大会

口座番号： 00260-2-130011

領収書とネームカードは兼用です。別に領収書が必要な場合は、学会当日、受付に申し出てください。

### 一般演題（ポスター）発表者へのお知らせ：

- 一つの演題に幅120cm、高さ180cmのパネルを用意いたします。ピン、セロテープ等は受付に用意してあります。
- 展示期間は学会期間中とします。初日（11月7

日）9:00より、2日目（11月8日）正午までとします。

- 発表・討論時間（11月7日、13:00-15:00）にはポスターの前に立ち、座長の進行に従って、6分程の発表と討論をしてください。ポスターの番号の下の数字は発表の開始時間です。
- 一般演題（ポスター）に対しては、参加者に投票してもらい、最も得票の多かった発表者にゴールデンプレゼンテーション賞ならびに賞品を贈呈します。投票の締め切りは、11月7日、午後5時までとします。投票箱はポスター会場に設置します。投票用紙はネームカードに付いております。

### ポスター発表される方および座長の方へ：

予定時刻の15分前までに受付までお越しいただき、ご来場の確認の後、会場にお入りください。

### 総会・評議委員会：

評議委員会（1） 11月8日（土） 8:00-9:00  
百十周年記念会館会議室  
評議委員会（2） 11月8日（土） 12:00-13:00  
百十周年記念会館会議室

総会 11月8日（土） 15:00-16:00  
学会会場（8号館7階ホール）

### 宿泊案内：

麻布大学生協が斡旋しますので、お問い合わせください。

麻布大学生協

Phone: 042-754-1380

Fax: 042-753-7179

E-mail: [koubai@azabu-u.ac.jp](mailto:koubai@azabu-u.ac.jp)

### 大会に関するお問い合わせ：

〒229-8501 神奈川県相模原市淵野辺 1-17-71

麻布大学獣医学部実験動物学教室

二宮 博義

Phone: 042-769-1652

Fax: 042-769-7291

E-mail: [aatex@azabu-u.ac.jp](mailto:aatex@azabu-u.ac.jp) or [ninomiya@azabu-u.ac.jp](mailto:ninomiya@azabu-u.ac.jp)

## 大会日程

時間		11月7日(金)	時間	11月8日(土)	
8:30		参加受付, ポスター準備	8:00	評議委員会 (1)	
			8:30	参加受付	
9:00		シンポジウムⅠ 皮膚刺激性試験代替法キット のバリデーション報告	9:00	市民公開フォーラム 我が国における動物実験代替法 への取り組みの現状と将来	
10:30		シンポジウムⅡ 大学における動物実験実習と 代替法の取り組み		我が国の動物実験代替法の取り 組みの現状  我が国の動物実験代替法の発展 に向けて	
11:30		特別演題発表 学会助成研究発表 学会論文賞発表・授賞式	12:00	評議委員会 (2)	
13:20		一般演題(ポスター)発表	13:00	市民公開フォーラム 動物実験と動物福祉 —どう両立させるのか, その社会的 合意のために—	
15:00		シンポジウムⅢ 代替法開発の現状と今後の展 望		15:00	総会
		特別講演: 欧州における代替 法の開発の現状と展望  毒性発現機構と代替法の現状		16:00	閉会
18:00		懇親会			

# 大会のプログラム

11月7日(金)  
会場:8号館7階 ホール  
8号館6階 教室

## シンポジウムⅠ 皮膚刺激性試験代替法キットのバリデーション報告 本キットは実用可能か?

座長:小島肇夫(日本メナード化粧品)

大野忠夫(セルメディシン)

9:00 - 10:30

S I - a	小島肇夫	日本メナード化粧品	皮膚刺激性試験代替キット評価の経緯
S I - b	園田 巖	東京理科大	結果報告
S I - c	吉村 功	東京理科大	まとめ

## シンポジウムⅡ 大学における動物実験実習と代替法の取り組み

座長:吉村 功(東京理科大学)

阪本典子(九州栄養福祉大学)

10:30 - 11:30

S II - a	遠藤 仁	杏林大学医学部	大学における動物実験実習と代替法の取り組み
S II - b	今井弘一	大阪歯科大学	
S II - c	渡辺正巳	長崎大学薬学部	
S II - d	二宮博義	麻布大学獣医学部	

## 特別演題発表:学会助成研究発表

座長:秋田正治(鎌倉女子大学)

猪股智夫(麻布大学)

11:30 - 12:00

A - 1	吉山友二	共立薬科大学	代替実験動物における抗悪性腫瘍薬の薬物相互作用学的検討
A - 2	津田弘久	食品薬品安全センター	ES細胞を用いたHPRT-遺伝子突然変異検出系の確立

## 特別演題発表:学会論文賞発表

座長:大野泰雄(日本動物実験代替法学会会長)

12:00 - 13:00

A - 3	Morikawa, N. <sup>1)</sup> Morota, K. <sup>1)</sup> Morita, S. <sup>1)</sup> Kojima, H. <sup>2)</sup> Nakata, S. <sup>2)</sup> Konishi, H. <sup>2)</sup>	<sup>1)</sup> GUNZE, <sup>2)</sup> Nippon Menard Cosmetic	Prediction of human skin irritancy using a cultured human skin model: Comparison of chemical application procedures and development of a novel chemical application procedure using the Vitrolife-Skin model.
A - 4	黒沢 努 大谷若菜	大阪大学・医・動験	苦痛による生命科学実験分類

## シンポジウムⅢ 代替法開発の現状と今後の展望

座長:大野泰雄(国立医薬品食品衛生研究所)

板垣 宏(資生堂)

15:00 - 16:00

S III - 1	Thomas Hartung	ECVAM	特別講演 Current status of alternatives to animal experiments on safety assessment in Europe (欧州における代替法の開発の現状と展望)
-----------	----------------	-------	---

毒性発現機構と代替法の現状

16:00 - 18:00

S III - 2 a	小野 宏	食品薬品安全センター	単回投与毒性試験
S III - 2 b	小島肇夫	日本メナード化粧品	皮膚刺激性試験
S III - 2 c	金澤由基子	食品薬品安全センター	感作試験
S III - 2 d	夏目秀視	城西大学	経皮吸収試験
S III - 2 e	林 真	国立医薬品食品衛生研究所	小核試験

一般演題(ポスター) 8号館6階 教室

13:20 - 14:02

座長: 今井弘一(大阪歯科大学)

P - 1 13:20	北垣雅人 森 眞輝 板垣 宏	(株)資生堂安全性・分析センター	急性毒性試験代替法の検討(1)
P - 2 13:26	Horst Spielmann Andrea Seiler Roland Buesen Anke Visan Birgitta Slavik Elke Genschow	ZEBET	IMPROVING THE EMBRYONIC STEM CELL TEST (EST) BY STANDARDIZING PROTOCOLS FOR DEVELOPMENT INTO NERVE AND CARTILAGE TISSUE
P - 3 13:32	秋田正治 <sup>1)</sup> 横山 篤 <sup>2)</sup> 黒田行昭 <sup>3)</sup>	<sup>1)</sup> 鎌倉女子大学 家政学部管理栄養学科, <sup>2)</sup> 神奈川生命記念財団研究所, <sup>3)</sup> 国立遺伝学研究所	培養胎児の成長・発育に対する心拍動数変化がおぼす影響について
P - 4 13:38	秋田正治 <sup>1)</sup> 横山 篤 <sup>2)</sup> 黒田行昭 <sup>3)</sup>	<sup>1)</sup> 鎌倉女子大学家政学部管理栄養学科, <sup>2)</sup> 神奈川生命記念財団研究所, <sup>3)</sup> 国立遺伝学研究所	培養胎児における薬物による形態異常の判定方法について - 口唇裂の確認法 -
P - 5 13:44	加藤真里 <sup>1)</sup> 秋田正治 <sup>1)</sup> 清水茂一 <sup>2)</sup> 野崎善弘 <sup>2)</sup> 横山 篤 <sup>3)</sup> 黒田行昭 <sup>4)</sup>	<sup>1)</sup> 鎌倉女子大学家政学部管理栄養学科, <sup>2)</sup> 株式会社富士バイオメディックス, <sup>3)</sup> 神奈川生命記念財団研究所, <sup>4)</sup> 国立遺伝学研究所	全胚培養を用いたラット胎児における難燃材テトラブロモビスフェノール A の影響 - 組織学的検討 -
P - 6 13:50	横山 篤 <sup>1)</sup> 秋田正治 <sup>2)</sup> 黒田行昭 <sup>3)</sup>	<sup>1)</sup> 神奈川生命記念財団研究所, <sup>2)</sup> 鎌倉女子大学家政学部管理栄養学科, <sup>3)</sup> 国立遺伝学研究所	プエラリアミリフィカの培養ラット胎児の心拍数への影響
P - 7	横山 篤 <sup>1)</sup>	<sup>1)</sup> 神奈川生命記念財	プロボリスによる培養胎児の心拍動数におよぼす影

13:56	秋田正治 <sup>2)</sup> 黒田行昭 <sup>3)</sup>	団研究所, <sup>2)</sup> 鎌倉女子 大学家政学部管理栄 養学科, <sup>3)</sup> 国立遺伝学 研究所	響について
-------	--	--	-------

13:20 - 14:14

座長:川端留美(大鵬薬品工業)

P-8 13:20	坂口 斉 吉田雪子 奥田峰広 吉塚直伸 鈴木尋之	花王株式会社安全性 評価研究センター	ヒト単球系細胞株を用いた皮膚感作性試験法の開発
P-9 13:26	出原賢治 山下邦彦 福田徳雄 山岸 学 河田直紀	ダイセル化学工業株 式会社	非-RI LLNA 試験法の検討
P-10 13:32	山下邦彦 出原賢治 福田徳雄 山岸 学 河田直紀	ダイセル化学工業株 式会社	非-RI LLNA を用いた新規な化学物質の皮膚感作性 評価
P-11 13:38	足利太可雄 <sup>1)</sup> 廣田衛彦 <sup>1)</sup> 穂谷昌利 <sup>1)</sup> 板垣 宏 <sup>1)</sup> 相場節也 <sup>2)</sup>	<sup>1)</sup> (株)資生堂安全性 分析センター, <sup>2)</sup> 東北 大大学院医学研究科	ヒト細胞株を用いる <i>in vitro</i> 感作性試験の開発
P-12 13:44	上月裕一 市川秀之 板垣 宏	(株)資生堂安全性分 析センター	経皮吸収性における皮膚代替人工膜の開発
P-13 13:50	岡本裕子 谷川浩子 水野 誠 中西美樹	(株)コーセー研究本 部品質保証センター 安全性研究グループ	皮膚モデルを用いた <i>in vitro</i> 光毒性試験の検討
P-14 13:56	園田 巖 <sup>1)</sup> 小島肇夫 <sup>2)</sup> 西澤 愛 <sup>3)</sup> 堀 道政 <sup>4)</sup> 川端留美 <sup>5)</sup> 小澤範恭 <sup>6)</sup> 鈴木民恵 <sup>7)</sup> 宇佐美雅仁 <sup>8)</sup> 石橋卓也 <sup>9)</sup> 吉村 功 <sup>1)</sup>	<sup>1)</sup> 東京理科大, <sup>2)</sup> 日本 メナード化粧品, <sup>3)</sup> ア イビー化粧品, <sup>4)</sup> 一丸 ファルコス, <sup>5)</sup> 大鵬薬 品, <sup>6)</sup> ピアス, <sup>7)</sup> ファン ケル, <sup>8)</sup> ホーユー, <sup>9)</sup> 東 洋紡	3次元ヒト皮膚モデルのバリデーション研究における 施設間評価 第2報

P - 15 14 : 02	小島肇夫 <sup>1)</sup> 西澤 愛 <sup>2)</sup> 堀 道政 <sup>3)</sup> 川端留美 <sup>4)</sup> 小澤範恭 <sup>5)</sup> 鈴木民恵 <sup>6)</sup> 宇佐美雅仁 <sup>7)</sup> 石橋卓也 <sup>8)</sup> 園田 巖 <sup>9)</sup> 吉村 功 <sup>9)</sup>	<sup>1)</sup> 日本メナード化粧品, <sup>2)</sup> アイビー化粧品, <sup>3)</sup> 一丸ファルコス, <sup>4)</sup> 大鵬薬品, <sup>5)</sup> ピアス, <sup>6)</sup> ファンケル, <sup>7)</sup> ホーユー, <sup>8)</sup> 東洋紡, <sup>9)</sup> 東京理科大	皮膚刺激性試験代替キット TESTSKIN™ の施設間評価 第3報 -ビボデータとの比較-
P - 16 14 : 08	森岡 進 小比田英機 鈴木恵巳 相川勝義	大正製薬(株)セルフ メディケーション開発 研究所外用剤研究室	ヒト3次元培養皮膚を用いた外用剤の刺激性の評価

14:02 - 14:44

座長:杉山真理子(資生堂)

P - 17 14 : 02	小林雅明 <sup>2)</sup> 杉原伸宏 <sup>1)</sup> 伊勢裕彦 <sup>1)</sup> 大政健史 <sup>2)</sup> 根岸直樹 <sup>1)</sup>	<sup>1)</sup> 信州大学大学院医学研究科, <sup>2)</sup> 大阪大学大学院工学研究科	交流インピーダンス測定を用いた肝由来細胞株内部での薬物代謝酵素応答のリアルタイムモニタ
P - 18 14 : 08	酒井康行 清水啓右 迫田章義	東京大学生産技術研究所人間社会部門	<i>In vitro</i> 肺胞モデルを用いた浮遊粒子状物質の影響評価
P - 19 14 : 14	中澤憲一 生島裕恵 大野泰雄	国立医薬品食品衛生研究所薬理部	アフリカツメガエル卵母細胞発現系を利用したヒトおよびラット受容体タンパク質の研究
P - 20 14 : 20	松島総一郎 <sup>1)</sup> 前田和哉 <sup>1)</sup> 設楽悦久 <sup>2)</sup> 佐々木誠 <sup>1)</sup> 鈴木洋史 <sup>1)</sup> 杉山雄一 <sup>1)</sup>	<sup>1)</sup> 東京大学大学院薬学系研究科分子薬物動態学教室, <sup>2)</sup> 昭和大学薬学部臨床分子薬品学教室	Cerivastatin の肝臓の膜透過過程における輸送機構の解明
P - 21 14 : 26	上田佳世 稲本雄之 畠 銀一郎 戸田忠夫	大阪歯科大学口腔治療学講座	Mineral Trioxide Aggregate および LPS 作用時のヒト歯根膜由来線維芽細胞における炎症性サイトカイン発現
P - 22 14 : 32	上埜文武 <sup>1)</sup> 今井弘一 <sup>2)</sup> 関 詔夫 <sup>1)</sup> 川本達雄 <sup>1)</sup> 長谷川 明 <sup>3)</sup>	<sup>1)</sup> 大阪歯科大学矯正, <sup>2)</sup> 大阪歯科大学歯科理工, <sup>3)</sup> GC デンタルプロダクツ	新重合開始剤による常温重合レジンの細胞毒性
P - 23 14 : 38	大洞嗣子 大谷若菜 田島 優 黒澤 努	大阪大学医学部附属動物実験施設	医学研究における Refinement の検証

P-24 14:02	坂田 武 宮崎博喜 安西尚彦 野城理絵 金井好克 遠藤 仁	杏林大学医学部薬理 学教室	新規腎臓尿酸トランスポーターURAT1の単離とヒト薬物標的の代替法
P-25 14:08	宇野 廣 <sup>1)</sup> 廉澤 剛 <sup>2)</sup> 長谷川貴史 <sup>3)</sup> 原 康 <sup>4)</sup> 夏堀雅宏 <sup>5)</sup> 桑原正人 <sup>6)</sup> 柴田秀史 <sup>7)</sup> 倉林 讓 <sup>8)</sup> 伊藤伸彦 <sup>9)</sup> 二宮博義 <sup>10)</sup> 西村亮平 <sup>11)</sup> 丸尾幸嗣 <sup>12)</sup>	<sup>1)</sup> (株)高研, <sup>2)</sup> 北海道大学, <sup>3)</sup> 宮崎大学, <sup>4)</sup> 日本獣医畜産大学, <sup>5)</sup> 北里大学, <sup>6)</sup> 日本大学, <sup>7)</sup> 東京農工大学, <sup>8)</sup> 岡山大学, <sup>9)</sup> 北里大学, <sup>10)</sup> 麻布大学, <sup>11)</sup> 東京大学, <sup>12)</sup> 東京農工大学	獣医臨床技術訓練用の犬シミュレータの開発
P-26 14:14	吉山友二 <sup>1)</sup> 杉山 隆 <sup>2)</sup> 菅家甫子 <sup>1)</sup>	<sup>1)</sup> 共立薬科大学臨床薬学, <sup>2)</sup> 北里大学薬学部臨床薬学研究センター病態解析学	ニワトリ胚を用いたトラスツズマブの薬物相互作用学的検討
P-27 14:20	阪本典子	九州栄養福祉大学食物栄養学部食物栄養学科	アフリカツメガエル胚を用いる原始生殖細胞(PGCs)形成に及ぼす環境化学物質の影響の検索(第1報) - 原始生殖細胞の形成を評価する簡便法の開発 -
P-28 14:26	田中憲穂 <sup>1)</sup> 若栗 忍 <sup>1)</sup> 小島 肇夫 <sup>2)</sup> 岡本裕子 <sup>3)</sup> 水野 誠 <sup>3)</sup> 板垣 宏 <sup>4)</sup> 森 眞輝 <sup>4)</sup> 穂谷昌利 <sup>4)</sup> 吉村 功 <sup>5)</sup> 佐藤真理 <sup>5)</sup> 大森 崇 <sup>6)</sup> 大野泰雄 <sup>7)</sup>	<sup>1)</sup> 食薬安全センター, <sup>2)</sup> 日本メナード化粧品, <sup>3)</sup> コーセー研究所, <sup>4)</sup> 資生堂, <sup>5)</sup> 東京理科大, <sup>6)</sup> 京都大学, <sup>7)</sup> 国立衛研	3T3 NRU 光毒性試験法の研究室間小規模バリデーション
P-29 14:32	津田弘久 佐々木澄志 田中憲穂	(財)食品薬品安全センター秦野研究所,細胞毒性研究室	ES細胞における各種変異原によるHPRT-遺伝子突然変異の誘発



11月8日(土)

市民公開フォーラム  
後援:相模原市教育委員会  
会場:8号館7階 ホール

I. わが国における動物実験代替法への取り組みの現状と将来

I-1. 我が国での動物実験代替法の取り組みの現状

座長:田中憲穂(食品薬品安全センター)

黒澤努(大阪大学医学部附属動物実験施設)

9:00 - 10:30

F I - 1 a	土屋敏行	万有製薬	医薬品開発におけるがん原性試験の代替法の現状
F I - 1 b	川端留美	大鵬薬品工業	動物実験代替法のケミカルハザード評価への利用について
F I - 1 c	豊田英一	日本化粧品工業連合会	化粧品業界における動物実験代替法の取り組みの現状
F I - 1 d	小野 宏	食品薬品安全センター	安全性試験研究施設における取り組み
F I - 1 e	黒澤 努	大阪大学医学部附属動物実験施設	大学での対応

I-2. わが国の動物実験代替法の発展に向けて

座長:小野 宏(食品薬品安全センター)

酒井康行(東京大学)

10:30 - 12:00

F I - 2 a	谷 博之	参議院議員	第154～第156国会における動物実験に関する審議の概要
F I - 2 b	吉田佳督	厚生労働省医薬品局 審査管理課	医薬品・医薬部外品・化粧品の承認審査の概要および非臨床試験としての動物実験代替法に期待するもの
F I - 2 c	野上ふさ子	地球生物会議 (ALIVE)	動物実験代替法の社会的促進のために

II. 動物実験と動物福祉 -どう両立させるのか、その社会的合意のために-

座長:黒田行昭(国立遺伝学研究所)

二宮博義(麻布大学)

13:00 - 15:00

F II - 1	須磨 章	NHK2003年テレビ新時代事務局	はじめに -動物実験を減らすために-
F II - 2	佐藤温重	宇宙開発事業団研究システム, 昭和大学, 東京医科歯科大学	動物実験をする立場から -動物実験代替法の導入-
F II - 3	米川博通	(財)東京都医学研究機構・東京都臨床医学総合研究所	中立の立場から
F II - 4	会田保彦	(財)日本動物愛護協会	動物愛護の立場から

## 企画委員会報告

企画委員長 酒井康行

### 6月25日、ミニシンポジウム「動物実験代替・削減とヒト組織の利用」報告

UK Pharmagene, Dr. Coleman

・ 総括質問・討論など

先号のニューズレターでお知らせしましたとおり、さる6月25日に共立薬科大学芝校舎講堂にて、標記ミニシンポジウムを開催いたしました。当学会のほか、HAB研究機構および共立薬科大学から共催を受けました。

告知から開催までの期間が極めて短かった(2ヶ月弱)にも関わらず、当日は約40名の方々の参加を得ました。少人数であったためか、特に最後の総合討論においては非常に活発な意見交換が行われ、当該分野に関する主要な問題点が抽出され、参加者の満足度も高かったと思われまます。懇親会には共立薬科大学の望月正隆学長の参加も得られ、極めて盛況でした。

当日の内容について、第三演者のDr. ColemanからはレビューがAATEX誌に投稿されることとなっていますので、出版時にはご参照ください。

(記 以下参考までに当日のシンポの内容を記す)

座長： 今井弘一 (大阪歯科大学, 代替法学会・国際交流委員長)

松村外志張 (ローマン工業, HAB研究機構)

①わが国におけるヒト組織の利用に関する技術的・社会的課題

国立医薬品食品衛生研究所・増井徹

②外科手術切除ヒト平滑筋組織を用いた薬理学研究の重要性とその問題点

獨協医科大学・上川雄一郎

③The value of experiments on human tissues and on animals in drug discovery - a continuing debate

### 平成15年度研究助成の審査結果について

今年度は、「感作性、一次刺激性物質の樹状細胞内レドックス環境に与える影響に関して」と題した一件の助成申請が、東北大学・医・内科・病態学講座・皮膚科学分野 相場節也先生からありました。

この助成申請について、企画委員会内にて、①研究目的の学会趣旨および3Rへの適合性、②動物使用の場合の適切さ、③学問的な面白さ、④年限内での結果獲得の可能性の4項目について審査を行いました。従来は、判断基準⑤として「学会への貢献度」が記されていましたが、前年度からの問題提起を受け、今年度については審査に含めませんでした。また、今回の研究計画では動物を使用しないため、②については審査を行いませんでした。

結論として、上記申請について、80万円の助成を行うことに決定致しました。その理由は、以下のようによまとめられます。「マウスを用いる感作性実験の代替法としての発展が将来には期待される基礎的な研究であり、その着眼点は学問的にも興味深い。一方で、研究計画は遠大であり、補助期間である1年間のうちに、十分な成果を得ることはかなり困難なのではないかと推察される。従って、満額補助は困難ではあるが、80万円の補助を行うべきである」。

この結果は、企画委員会から大野会長に答申され、認められました。またご本人からも、助成を受け入れる旨のお返事を頂きましたので、上記のとおり助成金支払いの手続きを現在進めております。

## 平成 15 年度の日本動物実験代替法学会論文賞選考について

動物実験代替法学会論文賞選考委員会において、平成 15 年度の論文賞受賞者として 1) Morikawa 氏らの論文“Prediction of human skin irritancy using a cultured human skin model: Comparison of chemical application procedures and development of a Novel chemical application procedure using the Vitrolife-skin model (AATEX 9(1), 1-10, 2002)”及び 2) 黒澤努, 大谷若菜の総説“苦痛による生命科学実験分類”が選考された。選考の経緯および理由は以下のとおり。

### <選考経緯と理由(敬称略)>

- 1) 今年度の選考対象論文の著者となっていない者として、大野学会長が暫定の論文賞選考委員長をつとめ、合計 5 名の選考委員会を組織した。
- 2) 選考委員長より評価用紙案を委員に送付され、委員により確認された。
- 3) 平成 15 年 7 月 31 日国立医薬品食品衛生研究所薬理部において選考委員会が開催された。
- 4) 委員会ではまず論文賞選考内規に基づいて委員の互選により大野が委員長に佐藤(宇宙開発事業団)が副委員長に選任された。次いで、論文賞選考委員会内規について検討し、別紙の様に修正した。要点は①前年度の学会誌に掲載された論文を審査対象とすること、②推薦の有無に関わらず、全ての論文および選考委員会が特に認めた総説を候補とすること、③内規の改定手続きを明記したことである。
- 5) 選考対象論文について検討し、2002 年度 AATEX 掲載のオリジナル論文および総説を選考対象とすることとされた。
- 6) 選考委員が個々の論文について講評を行った。
- 7) 選考委員毎に論文の①論文の科学的妥当性、②

内容の新規性、③オリジナリティー、④学会の目的への合致性、⑤重要性、⑥代替法へのインパクト、⑦結果の有用性について 5 段階評価を行い、それらをもとに総合評価を行った。

- 8) 委員毎の採点結果を集計したが、総説についての評価点をつけにくいことが明らかになった。そこで、委員それぞれが、候補論文を 4 種推薦し、それらについて更に審議を行ったが、いずれも優れた論文および総説とされ、合意に達することができなかった。そこで、3 人以上の委員により推薦された 4 つの論文について、それぞれの委員が推薦順位をつけ、それらの結果を集計した。
- 9) この上位 2 論文について更に審議した結果、いずれも論文賞として適当とされた。そこで、平成 15 年度の論文賞として人工皮膚 3 次元モデル Vitrolife-skin model を用い化学物質のヒト皮膚刺激性を評価するために様々なプロトコルを検討し、短期間暴露後に一定時間培養したのちに細胞毒性を評価する方法が適切であることを示した森川らの論文および欧米における痛みの分類法を解説するとともに、独自の分類を提案した黒沢および大谷による総説の 2 報を推薦するとされた。
- 10) 森川らの論文は科学的および応用性から有用な論文であるとされた。また、黒沢および大谷による総説は学会にとって意義の高い貢献であるとされた。

以上

平成 15 年 9 月 10 日

論文賞選考委員会委員長  
国立医薬品食品衛生研究所  
薬理部 大野泰雄

**JEMS & JSAAE2004 長崎大会  
開催予告**

平成 16 年度  
日本環境変異原学会第 33 回大会  
および  
日本動物実験代替法学会第 18 回大会合同大会

日本環境変異原学会および日本動物実験代替法学会は、科学技術の高度な利用によって人々の安全を確保するための学術的活動を行うという共通の理念を担っています。その理念を達成するためには、弛み無く高度で独創的な研究活動と先端的な技術開発を継続する必要があります。その理念を実現し、社会に貢献するためには、様々な専門領域の研究者や技術者がそれぞれの得意な分野の情報を密接に共有し協力することが重要です。そのために日本環境変異原学会および日本動物実験代替法学会は、それぞれの平成 16 年の学術会

議を、下記の予定で合同同時開催することとしました。これによって学会員相互の交流を深め互いの研究の高度化と活性化の切掛けとなることを期待しています。これまでに JEMS & JSAAE2004 長崎大会の企画委員会を立ち上げ、企画の策定を開始しました。この大会についての皆様の御希望等も、下記連絡先へ積極的にお寄せ頂くようお願い致します。長崎大会の詳細は、9 月中旬に開設する下記ホームページで公開して行きますので、奮って御参加下さるようお願いしております。

平成 15 年 9 月 1 日	
日本環境変異原学会	会 長 林 真
日本動物実験代替法学会	会 長 大野泰雄
JEMS & JSAAE2004長崎大会	大会長 渡邊正己

記

開催日時：平成 16 年 11 月 30 日（火） 12 月 2 日（木）  
開催場所：長崎市茂里町 長崎ブリックホールおよび NBC ホール  
大会長：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授 渡邊正己  
事務局：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科放射線生物学研究室  
担当：鈴木啓司  
連絡先：サイエンス・アシスト/JEMS&JSAAE2004担当  
e-mail:nabe@scienceassist.com  
URL:<http://www.scienceassist.com/JEMS&JSAAE2004>  
電話：095-848-8137 ファクシミリ：095-848-8599

## バリデーション情報

バリデーション委員長 吉村 功

### 1. 光毒性試験代替法

研究テーマ：酵母光生育阻害試験と赤血球光溶血試験を組み合わせた光毒性試験バッテリーの施設間バリデーション

先回のニュースレターで参加を呼びかけました上記バリデーションを予定通り、平成16年1月より開始します。

バリデーション参加締め切りまでに、提案施設を除き、6施設から応募がありました。

以下に今後の研究スケジュールを掲載します。

研究スケジュール：

2003年10月16日 実行委員会

11月13及び14日 技術研修会

2004年1月に試験開始

3月末までに、実験結果を実行委員会に報告

6月末までに報告書作成

研究成果の公表：実行委員会が著者を決定し、参加施設名を明示して学術論文として本学会誌等に投稿する。

### 2. 皮膚腐食性試験代替法

新たに皮膚腐食性試験のバリデーションも実施される予定です。

研究テーマ：皮膚腐食性試験小規模バリデーション  
目的：

化学物質等による皮膚腐食性を評価するための市販の皮膚三次元モデルの有用性を調べる目的にて、小規模バリデーション (catch up validation) を行う。

国産の皮膚三次元モデルの performance を ECVAM で有用性の認められた方法と比較する。

背景：

皮膚三次元モデルを用いた皮膚腐食性試験代替法は OECD ガイドラインに掲載され、世界的にも代替

法の利用が可能な数少ない試験である。皮膚三次元モデルのうち EpiDerm および Episkin については欧米でのバリデーションで皮膚腐食性試験代替法としての有用性が示されている。

一方、毒劇物の評価においても上記代替法を使用できないかについての検討が進んでおり、時代の流れから代替法の使用を考慮せざるを得ない状況にある。

しかし、それらの妥当性については日本国内で検討された例がなく、手技や評価に関わる問題点が不明である。また、日本製のキットの皮膚腐食性試験代替法としての妥当性を検討したバリデーション研究はなされていない。

バリデーション案：

皮膚腐食性試験の中でも、汎用性が高くなると思われる皮膚三次元モデルを用い、本試験法の小規模バリデーション及び評価の実施を提案する。

具体的には、すでに ECVAM にてバリデーションが終了している EpiDerm を比較対照として、各施設が複数のキットを評価するバリデーションを提案する。

以下に今後の研究スケジュールを掲載します。

研究スケジュール：

準備期間 平成15年12月～平成16年1月

実験期間 平成16年2月～3月

評価期間 平成16年4月～12月

なお、このバリデーションにおける参加施設の公募は致しませんので御了承下さい。

以上

## 日本薬理学会で「動物実験代替法」のシンポジウムを開催

第77回日本薬理学会年会(会長 三木直正 大阪大学教授)は2004年3月8日(月)～10日(水)に大阪国際会議場(グランキューブ大阪)で開催されます。

<http://pharma1.med.osaka-u.ac.jp/yakuri77/>

特別講演5題, 会長招待講演2題, シンポジウム48セッション, 教育講演3題, 一般口演約400演題, ポスター約600演題が予定されており, 薬理学研究に関する最新情報が期待されます。薬理学会などの関連学会で, 動物実験代替法に関するシンポジウムを開催されることは, 相互の会員にとって大変有意義なことと思われまふ。「薬理学における代替動物実験の展開」と題しますシンポジウムを開催致しますので是非ともご来聴下さい。(オーガナイザー 吉山友二)

### 「薬理学における代替動物実験の展開」

吉山友二(共立薬大・臨床薬学), 杉山 隆(北里大・薬・病態解析)

①基調講演 I 「動物実験代替法研究の重要性とその問題点」

大野 泰雄(国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 薬理部; 日本動物実験代替法学会 会長)

②基調講演 II 「動物実験: 実験動物福祉と動物実験反対は別物である」

黒澤 努(大阪大学 医学部 動物実験施設)

③「動物実験代替法におけるES細胞利用の新しい展開」

今井弘一(大阪歯科大学 歯科理工学講座)

④「工学的アプローチに基づいたバイオハイブリッド型人体システムの可能性」

酒井康行(東京大学 生産技術研究所)

⑤「動物実験代替法としての局所刺激試験法の開発と応用」

岡本裕子(株式会社コーセー 基礎研究所)

⑥「動物実験代替法を用いた薬効評価」

吉山友二(共立薬科大学 臨床薬学講座)

⑦総合討論

## ホームページが変わりました

広報委員長 小島肇夫

前々号からお知らせしていますが, 日本動物実験代替法学会のホームページが五月より, 生まれ変わりました。会員の皆様におかれましては, 是非, 一度足をお運び頂き, ご意見を下さい。

新アドレス

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsaae/index.html> (日本語)

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsaae/index-e.html> (英語)

また, できる限りホットな情報を提供すべく, 「お知らせ」を随時更新していきますので, 是非ご利用下さい。

日本動物実験代替法学会事務局

東京都文京区本郷 7-2-4 浅井ビル 501 号室 学会事務局

TEL:03-3811-3666

FAX:03-3811-0676

E-mail : [JDM05126@nifty.ne.jp](mailto:JDM05126@nifty.ne.jp)

発行：日本動物実験代替法学会

会長：大野 泰雄

担当：広報委員会 委員長 小島 肇夫

日本メナード化粧品株式会社 総合研究所

〒451-0071 名古屋市西区烏見町 2-7

TEL:052-531-6269

FAX:052-531-6277

E-mail:[h.kojima@menard.co.jp](mailto:h.kojima@menard.co.jp)